

<2018年3月期 第2四半期決算 下社長挨拶>

【上期実績報告】

まずは上期の実績ですが、全体としては、概ね、期首計画通りであったと思っています。

国内販売は、トラック・バス全体で 30,930 台、前年比 103%となり、シェアは上期として過去最高を更新しました。海外においても、アジアや北米での販売が好調に推移した結果、海外全体で 56,660 台、前年比 109% となり、国内外あわせたグローバル販売台数は 87,590 台、こちらも上期として過去最高となりました。

損益面では、売上高 8,500 億円、営業利益は 349 億円、純利益は 230 億円となり、対前年比で増収増益となりました。

中間配当につきましては、期首予想通りの 13 円 とさせていただきます。

【今期の見通し】

続いて、今期の見通しですが、足元の需要や環境面の影響などを踏まえ、見通しの修正を行いました。

国内販売は、引き続き堅調に推移すると想定し、年度の販売台数は期首計画通りの 6 万 7,000 台とする一方、海外販売については、主力市場であるインドネシアを中心としたアジア市場や北米市場の好調により、期首見通しに対して プラス 2,000 台の 11 万 8,000 台、グローバル販売台数としては、18 万 5,000 台を見込んでおります。

この結果、今期の連結損益の見通しは、売上高は、期首公表に対して 400 億円上方修正し、1 兆 7,600 億円としましたが、営業利益ほか各利益は据え置くことといたしました。

なお、配当についても、期首予想通り、中間・期末配当とも 13 円、年間 26 円とさせていただきたいと考えております。今後も、高水準な投資と財務体質改善を並行しつつ、引き続き、配当性向 3 割を目途に、配当を続けさせていただきたいと考えております。

【生産供給体制の最適化について】

日野は、生産供給体制のグローバルな最適化を進めており、その一環として、日野工場から古

河工場への移転を順次進めてきました。この9月からは、大中型車両の全種類・全量が、古河工場での生産に切り替わりました。

新しい工場、新しい設備、新しいラインで、これまでと違った、国内海外・大型中型すべての混流生産、その上、国内向けは今年4月に発売した新型車であるなど、新しい取り組みばかりですが、品質第一で丁寧につくりこんでおり、稼働も順調に上がってきています。

従来から申し上げております、日野工場と比べた際の生産性向上と物流改善による移転効果につきましても、今年度末には、概ね目標を実現できる見込みです。

また、ユニット生産のマザー工場となる新田工場へは、大型エンジンの生産などを日野工場から、計画通り順次移しています。

これら生産供給体制の最適化を通じて、多品種少量を高効率につくりあげ世界のお客様へタイムリーに供給できる、競争力のあるトラック工場を目指して、今後もさらに、効率化やさまざまなカイゼン活動を続けていきたいと思っております。

【国内向け大中トラック新型車について】

本年は、大型トラック『日野プロフィア』と、中型トラック『日野レンジャー』をフルモデルチェンジしました。ドライバー不足が叫ばれる中、新型車は、多くの先進安全システムを装備することに加え、仕事場としての快適さ・居住性を追求することで、ドライバーが乗りたくなるようなトラックを目指して作り上げました。おかげさまで、お客様から、好評の声を多くいただいております。

また、両車両とも、今年度のグッドデザイン賞を受賞しました。日野プロフィアについては、「グッドデザイン・ベスト100」にも選出されました。

【トータルサポートの強化について】

日野は、お客様の車の稼働の最大化を目指す「トータルサポート」を、今後とも大きな柱のひとつと考えており、販売会社を含め、日野グループ全体としてお客様との関わりをより広く、より強くするために、「トータルサポート」の強化を図ってきております。

例えば、お客様の利便性向上および整備効率向上のため、高効率な整備レーンを積極的に導

入しているほか、拠点新設やリニューアルを毎年続けています。

力を入れ続けてきている小型トラックについては、上期において、国内過去最高の販売台数とシェアを記録するなど、お客様の保有台数が着実に伸びてきていることから、小型トラック対応用の整備レーン数も、着実に増やしております。引き続き、保有の増加にあわせて整備レーンの拡充を実施していきたいと思っています。

【グローバルビジネスの強化について】

海外については、将来の販売増を目指し、競争力強化のために、グローバルでの活動をさらに強化していきます。

例えば、北米強化の一環としては、米国ウェストバージニア州で新工場を建設し、生産のさらなる現地化を進めるとともに、高馬力の中型新モデルも投入していきます。また、ロシアでの組立工場建設などを含め、グローバルビジネスの拡大に今後とも注力していきたいと考えております。

【おわりに】

新工場の古河では、9月より大中型車両の全種類・全量のミックス生産を始めました。稼働も順調に上がってきています。今後、古河工場の特徴である、高効率でフレキシブルな生産をさらに磨きあげ、競争力を高めていきたいと考えております。新製品である国内向け大中トラックの登録は、下期から本格化します。しっかりと作り込みを行い、お客様のご要望にあわせた、最短のリードタイムで、お届けしていきたいと考えております。

また、将来の販売増を目指した海外展開と、トータルサポートの強化を進め、もっと多くの国内外のお客様のビジネスを支えていきたいと強く思っております。これらの取り組みは、まさに、日野の競争力をさらに高め、持続的成長につながるものと確信しています。

以上